

2025年度
数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（MDASH）
【リテラシーレベル】

自己点検・評価報告書

2026年5月
上智大学基盤教育センター・データサイエンス領域会議

1. 自己点検・評価の実施体制及び結果
2. 科目概要及び履修実績
3. 授業アンケート分析結果(春学期・秋学期)

※データサイエンスプログラム全体の履修状況は「2025年度データサイエンスプログラム(スタンダードコース)自己点検・評価報告書」をご参照ください。

1. 自己点検・評価の実施体制及び結果



自己点検・評価:実施体制

- 2021年に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の認定を受け、2022年度より全学必修科目として開講している「データサイエンス概論」の2025年度の状況について、下記メンバーによる自己点検・評価を実施した。
- 上智大学 基盤教育センター・データサイエンス領域会議

領域長 倉田 正充 (経済学部経済学科 教授)

委員 大原 佳子 (応用データサイエンス学位プログラム 教授)

鎌田 浩史 (IR推進室 チームリーダー)

長谷部 拓也 (国際教養学部国際教養学科 准教授)

山下 遥 (理工学部情報理工学科 准教授)

自己点検・評価:結果

点検項目	評価結果
1. プログラムの履修・修得状況	2025年度の履修者に占める修了者の割合は、95%(修了者数2,692名)と前年度に引き続き高い割合を示していることから、本項目は適切であると判断できる。
2. 学修成果	成績評価の割合はA評価がおよそ40%、B評価がおよそ37%と高いため、本項目は適切であると判断できる。F評価(不合格)の割合は前年度の6%と比較して5.5%とやや改善したものの、依然として再履修者の高い不合格率が課題として挙げられる。
3. 学生アンケートを通じた学生の内容の理解度	授業アンケートの結果、「説明がわかりやすかった」「多様な考え方が身についた」等の理解度に関する項目は、5段階評価の平均値が概ね4を上回っており、本項目は適切であると判断できる。
4. 学生アンケートを通じた後輩等他の学生への推奨度	授業アンケートの結果、最終回における授業推奨度(NPS:ネットプロモータースコア)は学部によって19.3~64.1とバラつきがあるものの、いずれも比較的高い水準にある。また2024年度と比較しても全体的に向上していることから、本項目は適切であると判断できる。ただし、総合グローバル学部のみ、最終回のNPSが30を大幅に下回っており、この要因の分析と対策の検討が引き続きの課題である。
5. 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	1年次の全学必修科目であり、また不合格者についても2年次以降に再履修できるカリキュラムが整備されていることから、本項目は適切であると判断できる。再履修者の高い不合格率の対策については引き続き検討すべきである。

2. 科目概要及び履修実績



授業の概要

到達目標	<ol style="list-style-type: none">1. 社会においてどのようにデータ・AIが活用されているかについて理解する。2. データの読み解きや説明の仕方などのデータリテラシーについて理解する。3. データ・AIの利活用における法と倫理の問題など留意事項について理解する。4. 実データを用いた演習を通して、実課題に対する分析方法や分析結果の共有プロセスについて理解する。
#1	イントロダクション
#2	事例① 日常生活とデータサイエンス
#3	事例② ビジネスとデータサイエンス
#4	事例③ 公共政策とデータサイエンス
#5	手法① 特徴を理解する
#6	手法② 違いを確かめる
#7	手法③ 新たな発見をする
#8	手法④ 将来を予測する
#9	演習① データの操作
#10	演習② データの可視化
#11	演習③ データの利活用
#12	態度① データのセキュリティ
#13	態度② データの法と倫理
#14	まとめ・最終レポート相互評価
期末課題	政府統計（教育用標準データセット）を用いた分析レポート

2025年度「データサイエンス概論」履修実績

学部	収容定員	年度										累計履修者数	履修率 収容定員に対する 履修者割合
		2025 修了者数	2025 履修者数	2024 修了者数	2024 履修者数	2023 修了者数	2023 履修者数	2022 修了者数	2022 履修者数	2021 履修者数	2020 履修者数		
神学部	186	44	54	45	51	43	51	39	41	6	0	149	80.1%
文学部	2040	464	507	467	522	458	521	471	509	135	5	1692	82.9%
総合人間科学部	1220	288	301	294	308	294	309	286	294	163	0	1074	88.0%
法学部	1320	319	335	309	333	322	341	333	340	155	5	1174	88.9%
経済学部	1320	320	343	316	331	317	336	313	321	259	2	1249	94.6%
外国語学部	2000	477	500	479	508	479	509	486	504	198	1	1720	86.0%
総合グローバル学部	880	212	219	212	223	216	230	200	212	73	1	739	84.0%
国際教養学部	744	170	175	180	189	165	171	112	112	2	0	474	63.7%
理工学部	1550	398	415	399	409	405	411	373	381	420	11	1632	105.3%
合計	11260	2692	2849	2701	2874	2699	2879	2613	2714	1411	25	9903	87.9%

- 2022年度から必修科目として開講。
- 国際教養学部は22年度秋学期から必修科目を開講したため、履修サイクルの関係上、履修率が低く出ている。

2025年度「データサイエンス概論」成績分布

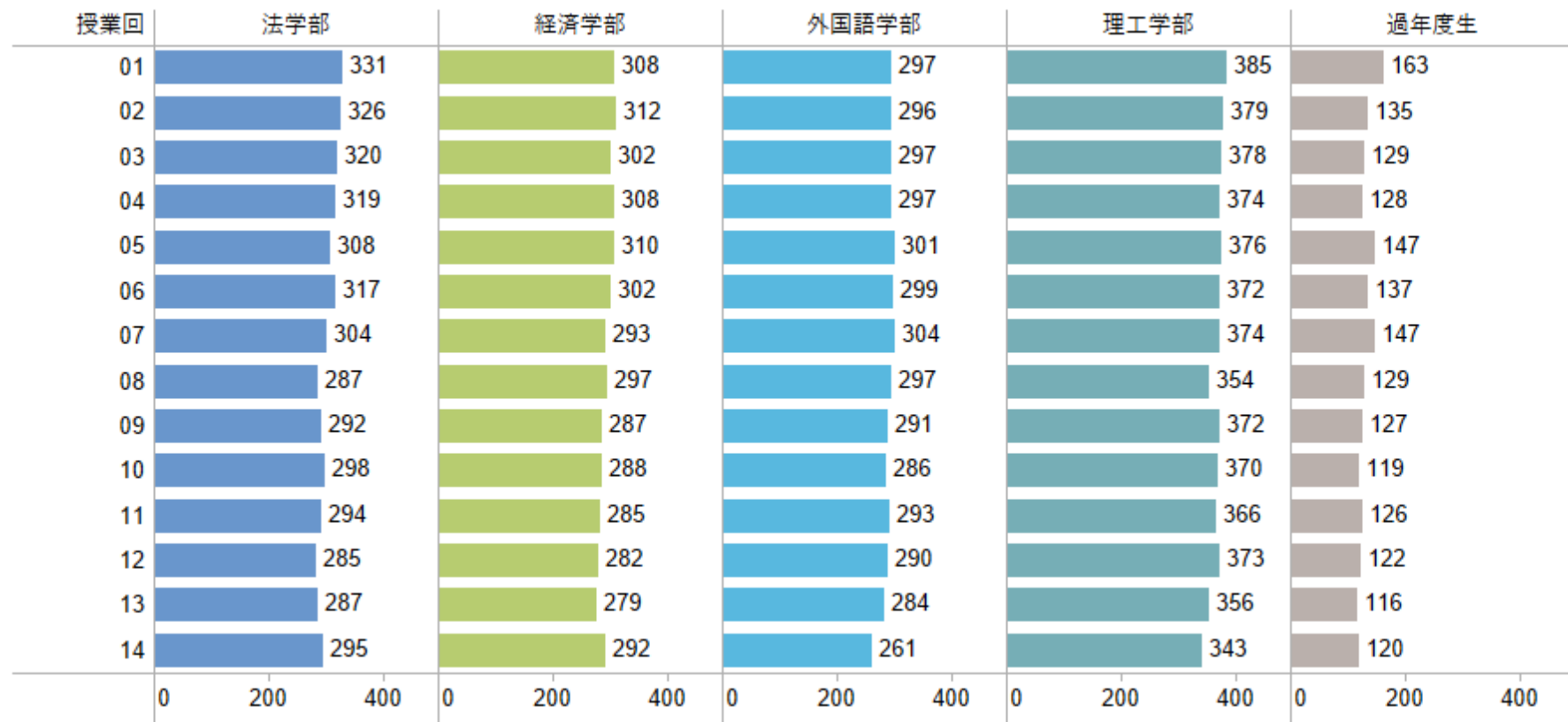
成績	人数	割合(%)
A (100~90点)	1138	39.94%
B (89~80点)	1047	36.75%
C (79~70点)	371	13.02%
D (69~60点)	136	4.77%
F(59点以下:不合格)	157	5.51%
合計	2849	100.00

- 約40%の学生がA評価(100~90点)の好成績を修めている。
- B評価も含めると、全体の約77%が80点以上の成績で単位修得しており、学修成果は概ね高いレベルにあると言える。
- 5.5%の不合格者(F評価)は次年度に再履修する。

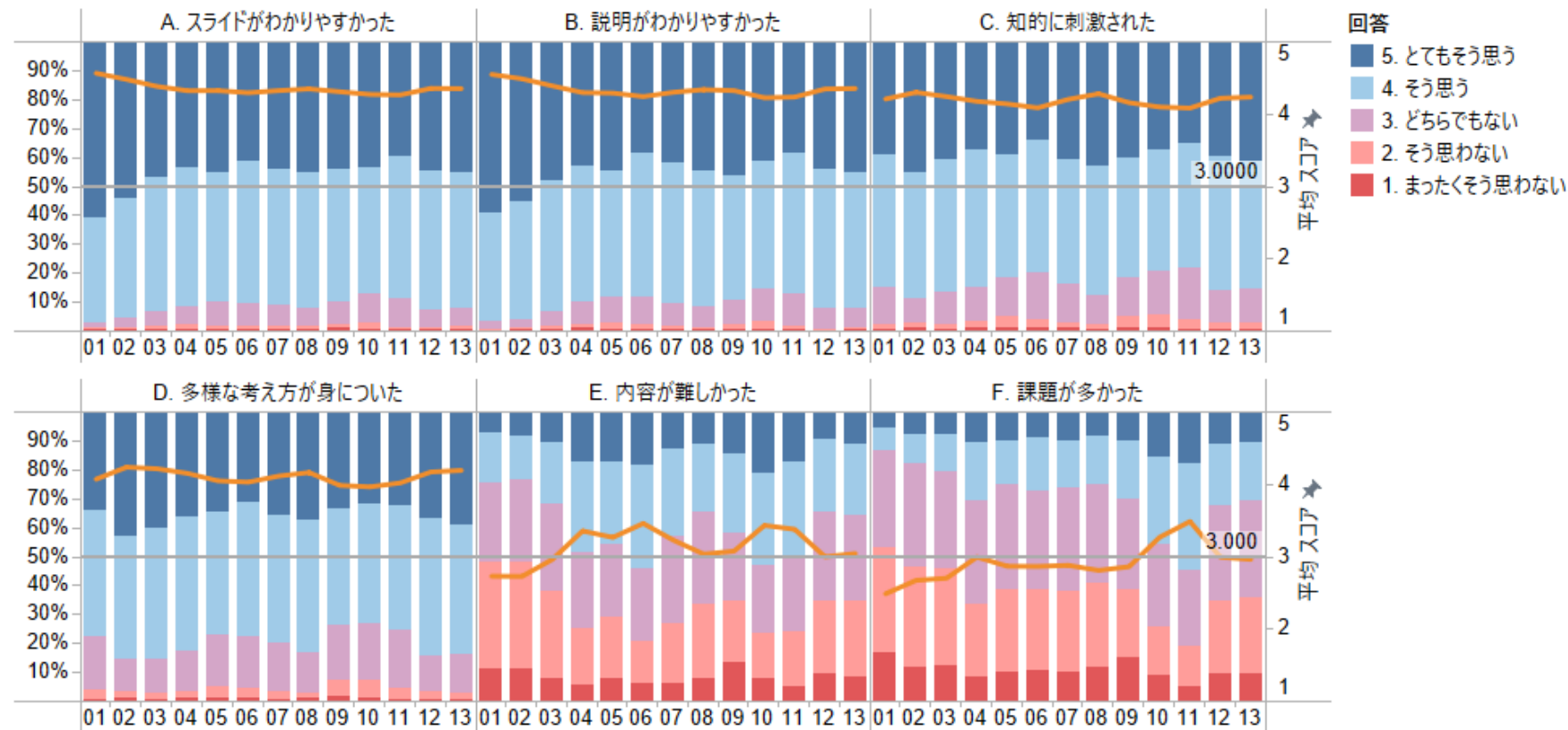
3. 授業アンケート集計結果
春学期



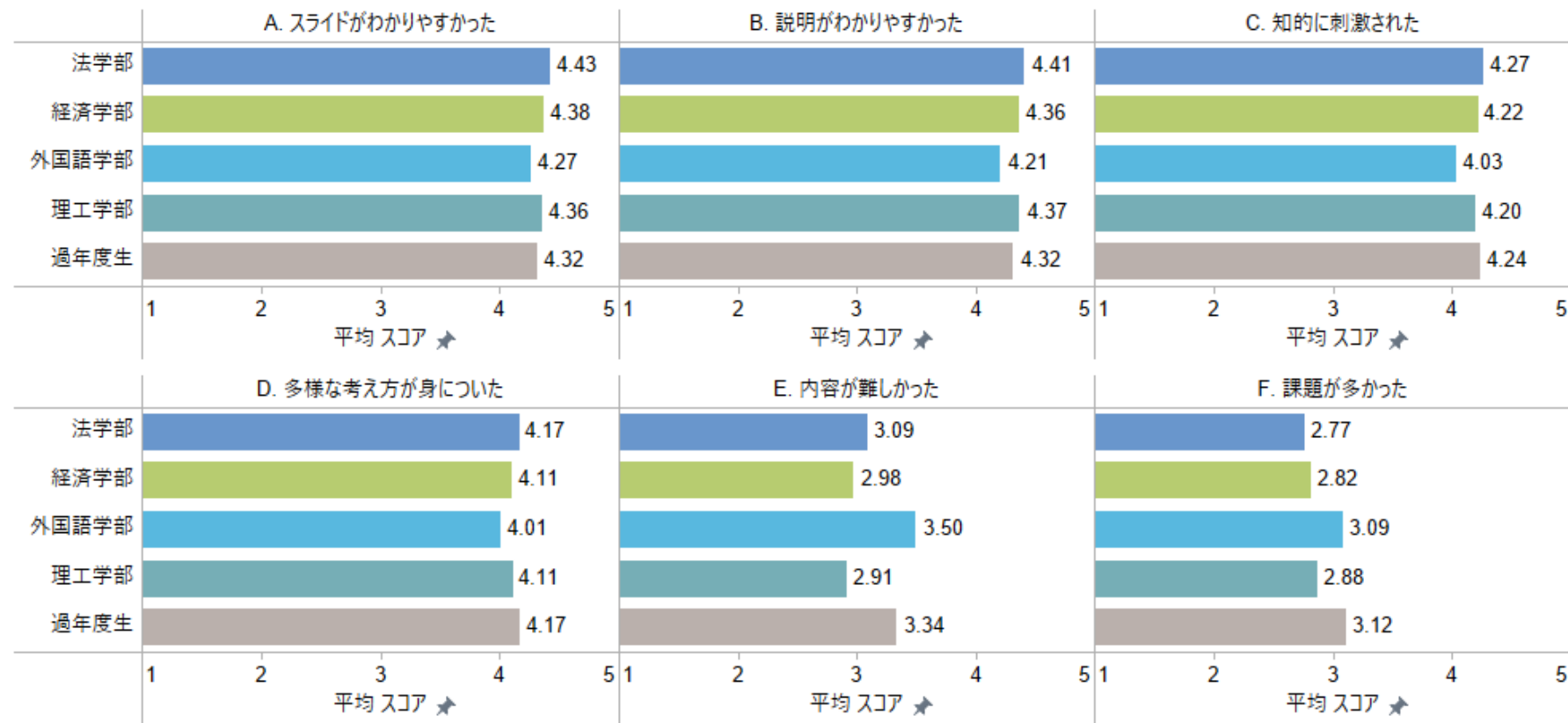
アンケート回答者数



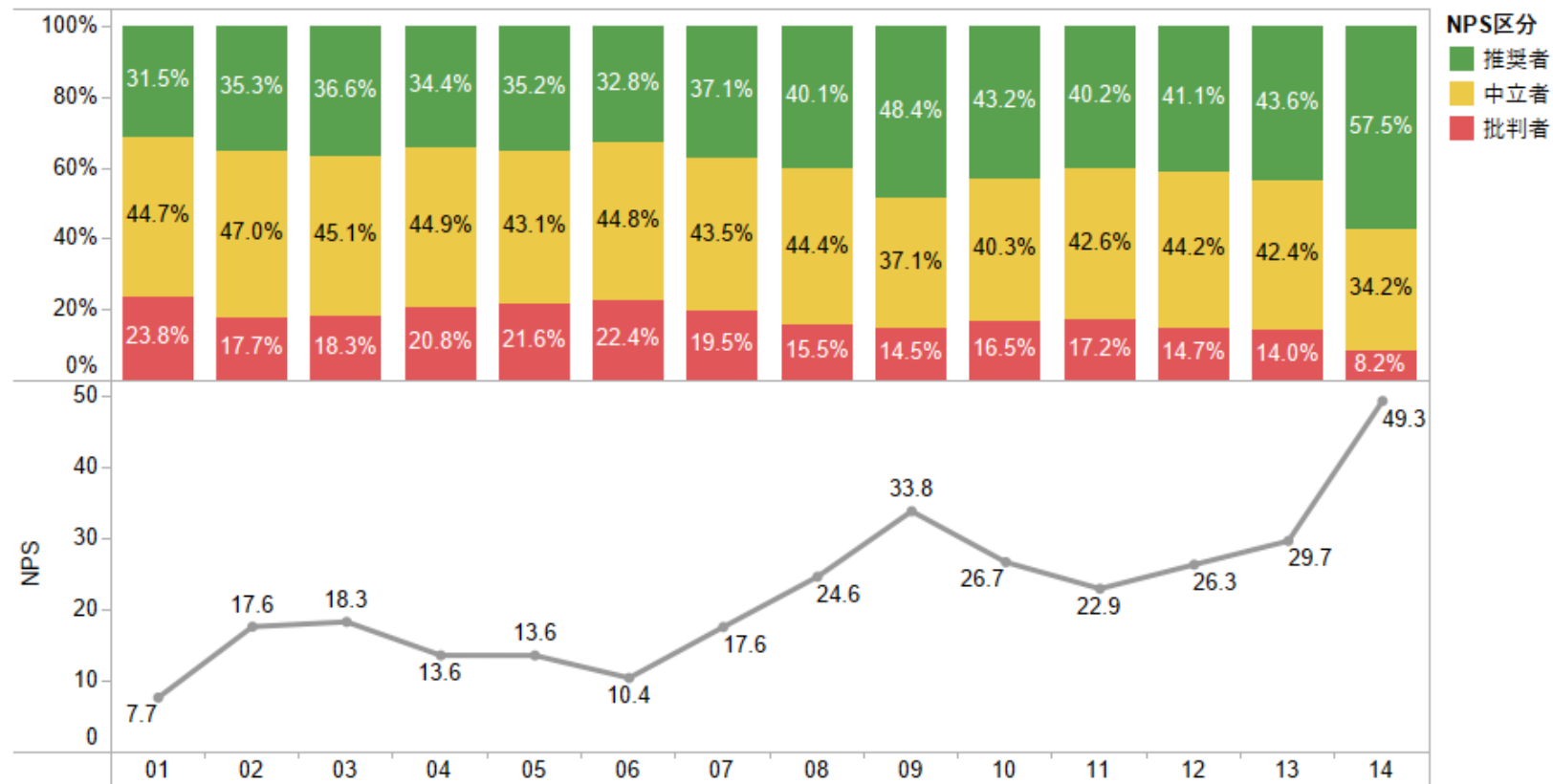
概ね高評価。難易度、課題の量も適切。



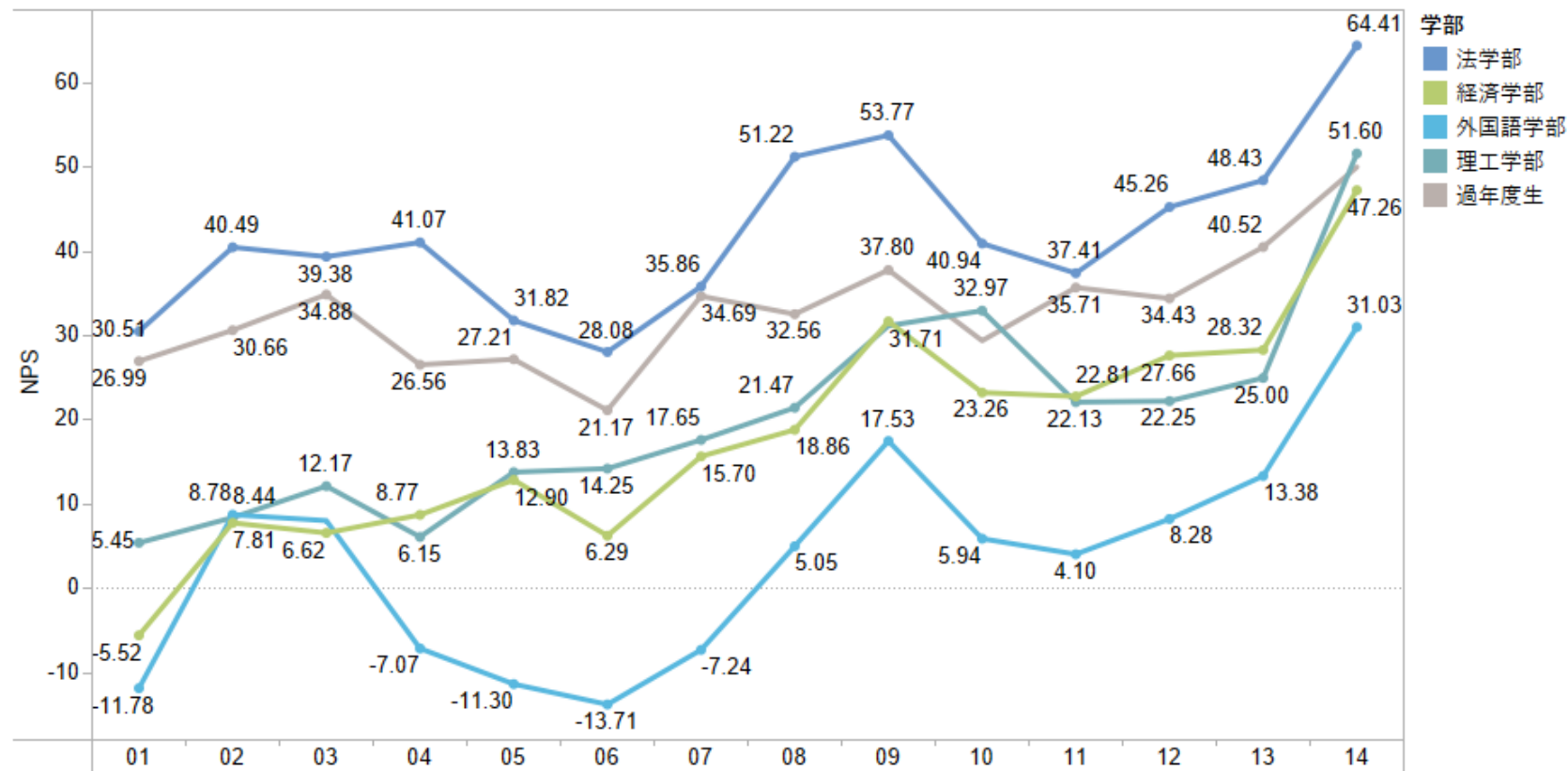
外国語学部で「内容が難しかった」のスコアが高い。



NPSはすべての回でプラス。第9回と第14回のNPSが高い。



第4～7回で外国語学部のNPSがマイナス。外国語学部のNPSは他学部比べて全体的に低い。



推奨者の意見（ChatGPTによる要約）

主なキーワード

- 「面白い／面白かった」
- 「わかりやすい」「説明がわかりやすく」
- 「将来に役立つ」
- 「楽しい」「必修だから（義務だが満足）」

内容の傾向

- 内容理解がしやすく、講義の進め方や説明の明瞭さに対して高評価。
- 「面白い」「楽しい」という感想が多く、データサイエンスへの関心が高まったという記述も多い。
- 「将来役立つ」「社会で必要」など、実践的価値への言及が目立つ。
- 一方で「必修だから」との表現も見られ、義務受講であることが推薦理由に混ざるケースもある。

批判者の意見（ChatGPTによる要約）

主なキーワード

- 「必修だから」「特になし」「難しい」
- 「可もなく不可もなく」「ただ」「なし」
- 一部に「わかりやすい」「役に立つ」といった肯定的要素も

内容の傾向

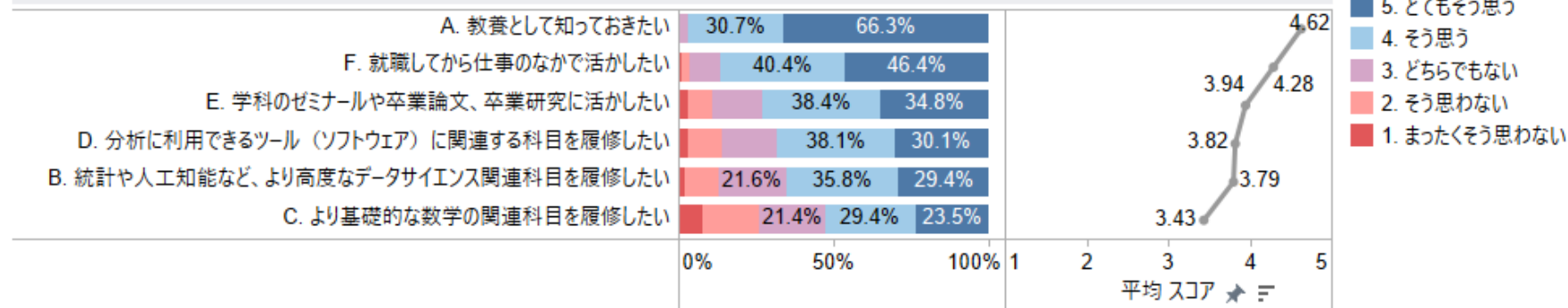
- 最大の特徴は「コメントなし」「特になし」といった回答が多い点。
- 「必修だから受けた」「興味がない」「難しい」など、受講動機の低さを示す意見。
- 教員の説明や内容理解に明確な不満は少ないが、モチベーション不足や抽象的理解困難さを理由に挙げる傾向。
- 一部では「役に立つとは思いが楽しくない」「とにかく難しい」といった現実的な意見も見られた。

推奨コメントの推移（ChatGPTによるまとめ）

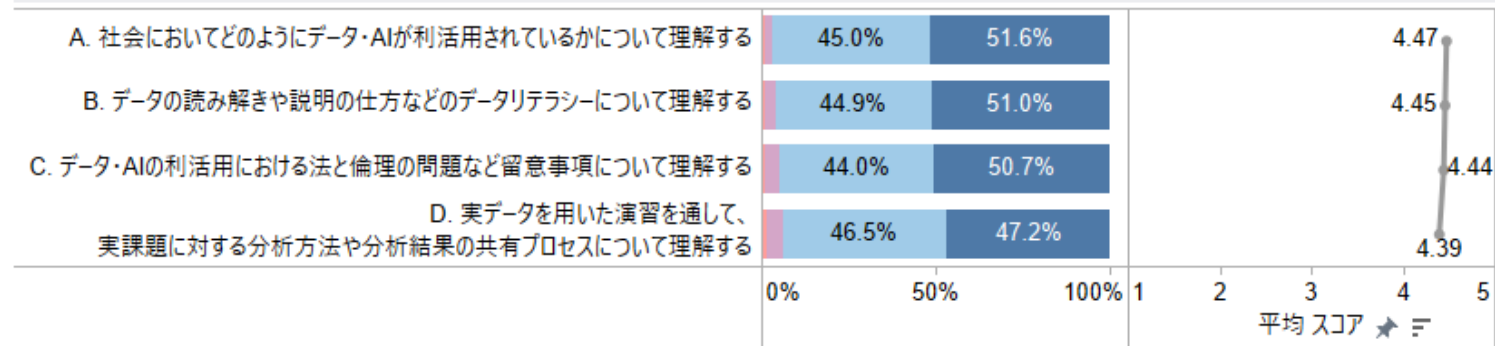
第1回	導入として授業の方向性を理解しつつも、受講者はまだ様子見の段階。
第2回	日常との関連性が見え始め、授業の意義を感じる学生が増加。
第3回	因果や倫理への関心が高まる一方、難しさを感じる層も出現。
第4回	ディスカッションを通じて主体的学びが促され、肯定的評価が増える。
第5回	統計内容の理解差が生じるが、「面白い」との声が優勢。
第6回	分析内容が実践的になり、「将来役立つ」との意識が形成される。
第7回	N-gramなど具体的手法が関心を集め、楽しさと理解が両立。
第8回	ChatGPTなど時事的テーマで最も関心が高まり、推奨度が上昇。
第9回	Excel実習を通じてスキルの実用性を実感する学生が増える。
第10回	データ可視化の重要性を理解し、社会での活用を意識。
第11回	学びの総合化が進み、説明の丁寧さや教授への信頼感が強まる。
第12回	情報リテラシーを通じて社会的意義を実感し、全体的に肯定的。
第13回	データ活用の倫理的側面に気づき、学びの必要性を内省的に捉える。
第14回	学期全体を通じた成長を実感し、将来への展望と感謝の言葉が多く見られる。

今後の活用は「教養として知っておきたい」が圧倒的多数。 到達目標は概ね達成

今後の活用



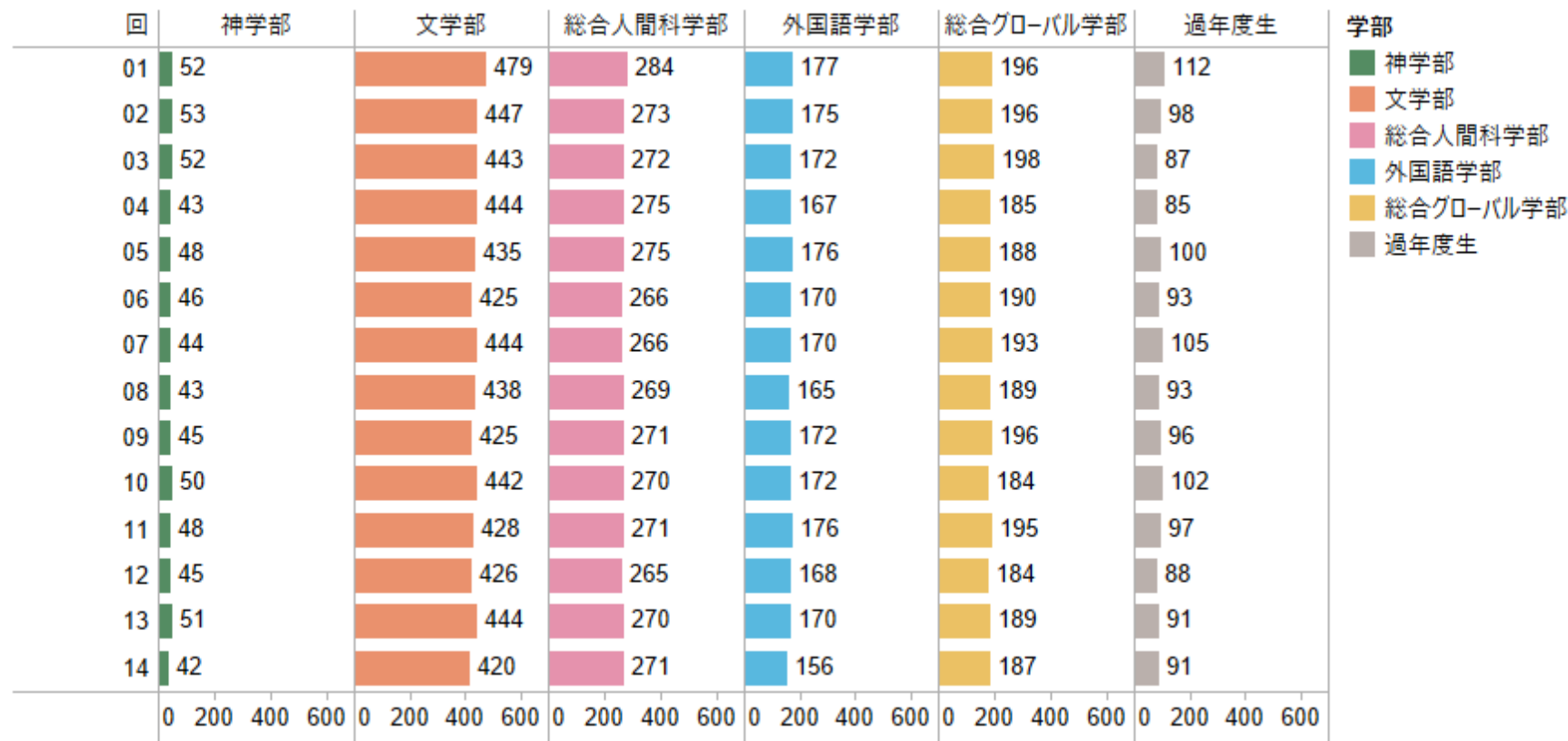
到達目標の達成度



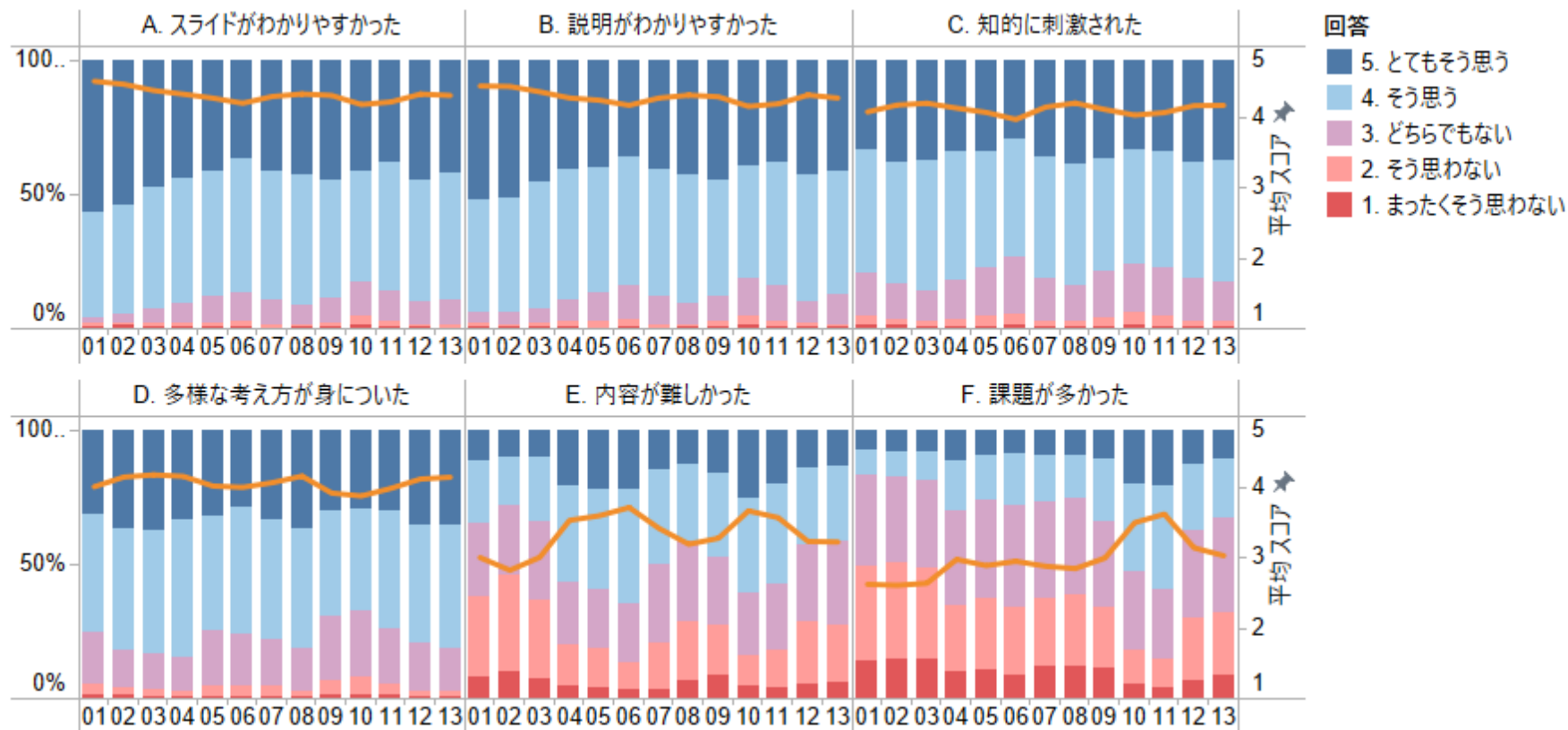
3. 授業アンケート集計結果
秋学期



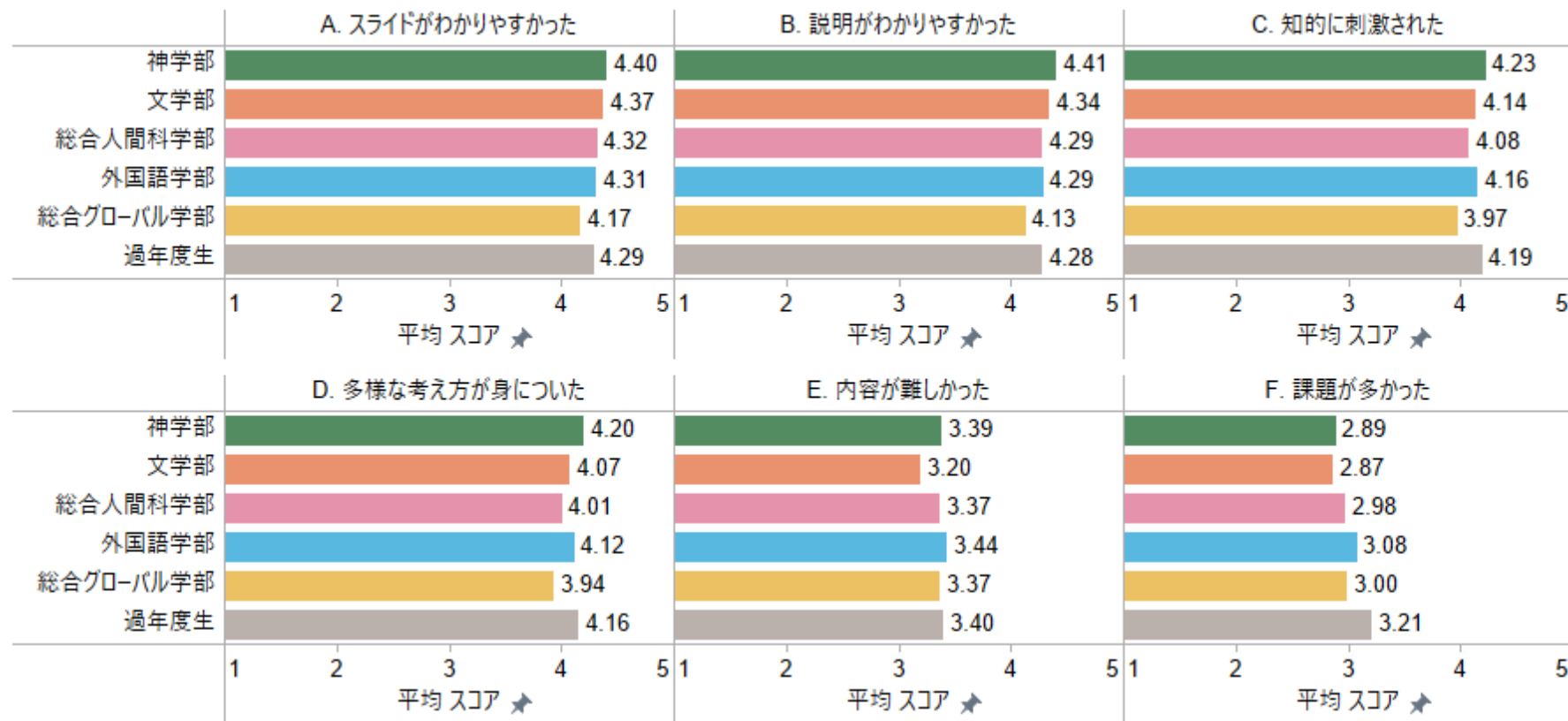
アンケート回答者数



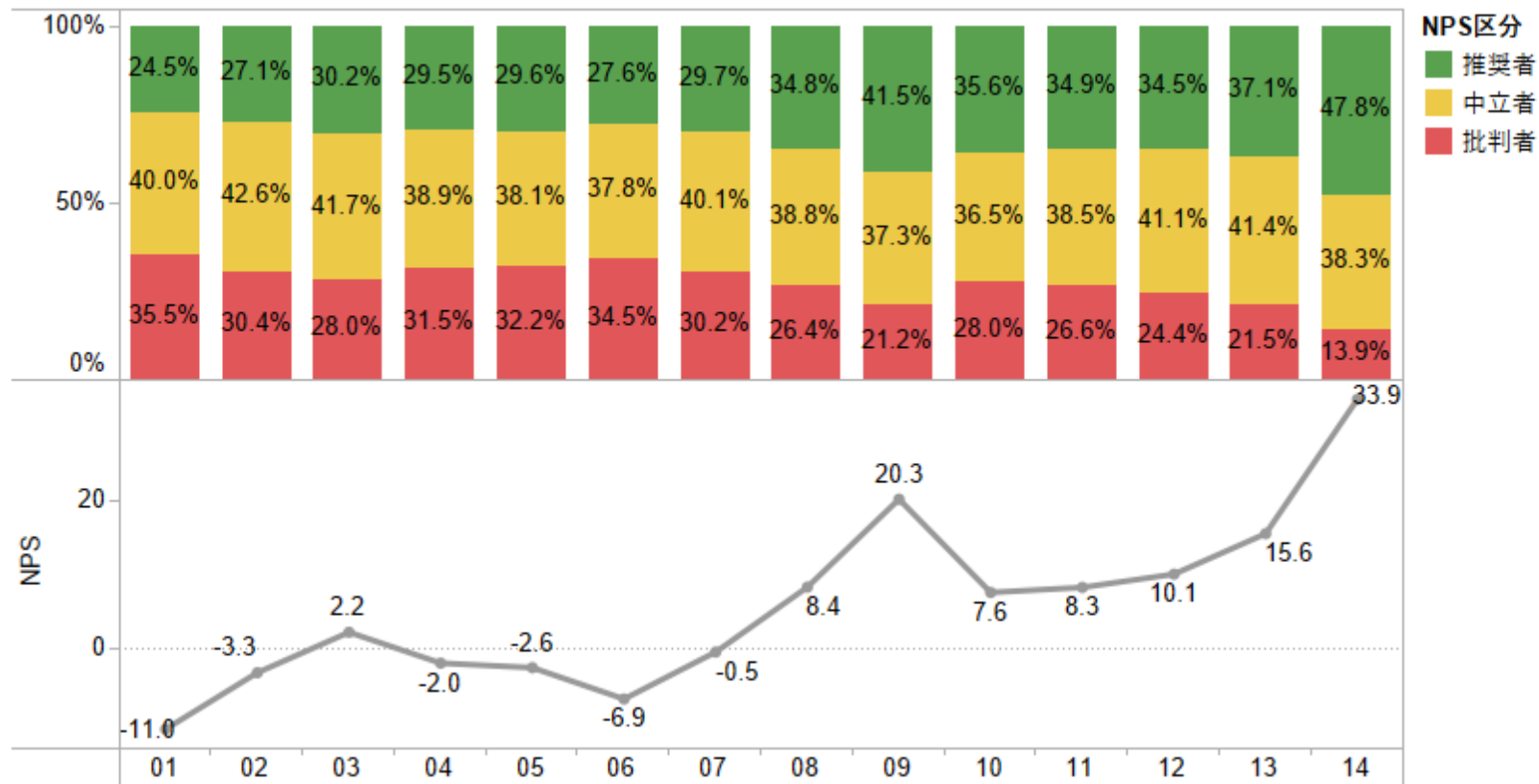
概ね高評価。難易度、課題の量も適切。



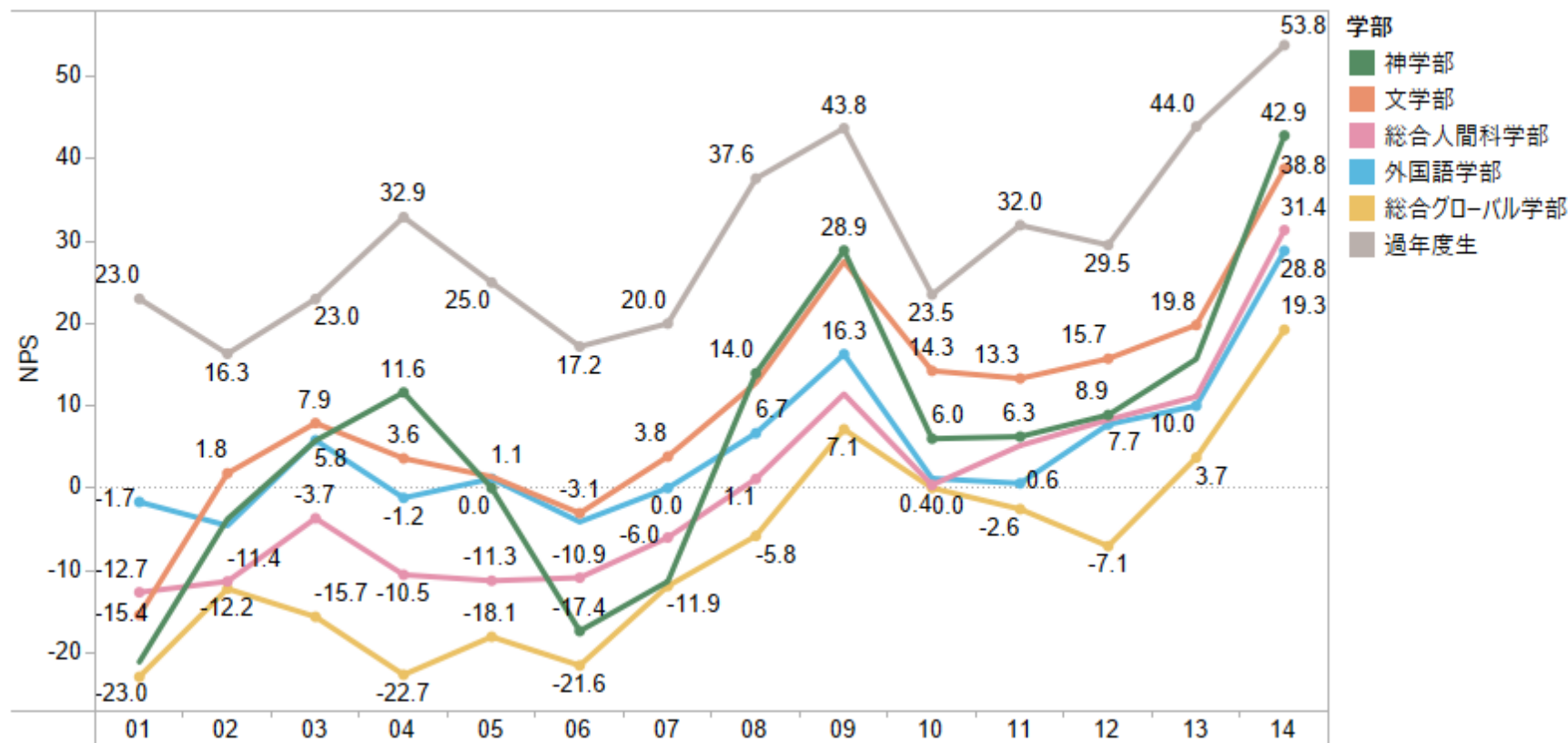
学部ごとの差はあまりみられない。



NPSは序盤にはマイナスだが、後半にプラス。第9回と第14回のNPSが高い。



全体的に総合グローバル学部のNPSが低い。神学部のNPSは高低差が激しい。



推奨者の意見（ChatGPTによる要約）

主なキーワード

- 「面白い／興味深い」
- 「わかりやすい」「理解できた」
- 「将来役立つ」「必要だと思った」
- 「必修だから（最初は義務）」

内容の傾向

- 授業後半にかけて理解が進み、「わかるようになった」という記述が増加。
- 「面白い」という評価はあるが、初期よりも理解や実用性に関する言及が中心。
- 「将来役立つ」といった実践的価値の認識が、回を追うごとに強まる。
- 「必修だから」という理由は残るものの、受講後に肯定的評価へ転換する傾向が見られる。

批判者の意見（ChatGPTによる要約）

主なキーワード

- 「必修だから」「特になし」「なし」
- 「難しい」「よくわからない」
- 「興味がない」
- 一部に「役に立つと思うが…」

内容の傾向

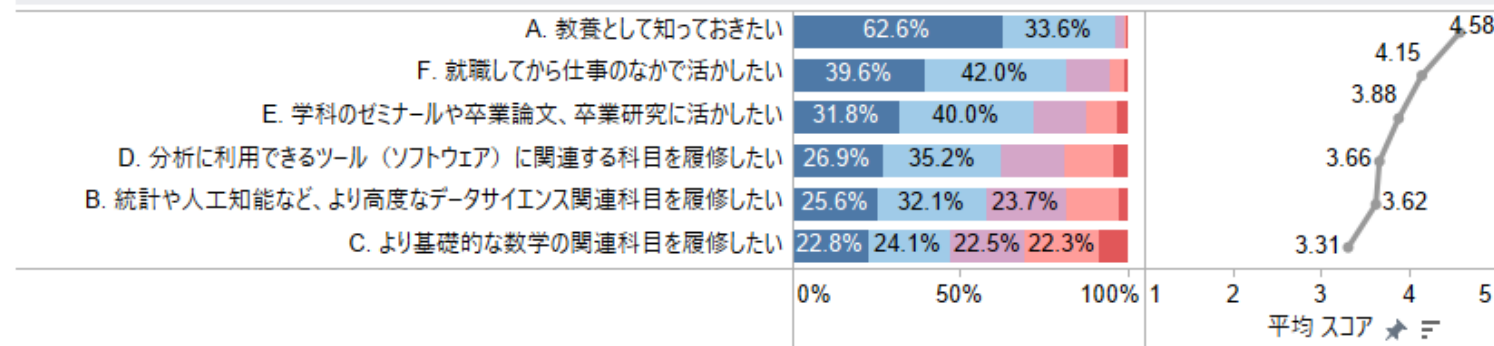
- 最も特徴的なのは「特になし」「コメントなし」が多く、関与の低さが顕著。
- 「必修だから受講した」といった受動的理由が中心。
- 明確な不満よりも、「難しい」「理解しにくい」といった認知的負担が理由。
- 一部では「役立つとは思いますが興味を持たない」など、価値認識と興味の乖離が見られる。

推奨コメントの推移（ChatGPTによるまとめ）

第1回	授業の全体像を把握する段階で、受講者は様子見の傾向。
第2回	内容の方向性が見え始めるが、まだ評価は限定的。
第3回	内容の難易度を意識し始め、理解にばらつきが生じる。
第4回	授業形式に慣れ、徐々に主体的な関与が見られる。
第5回	理解の差はあるものの、興味を示す学生が一定数存在。
第6回	実践的内容に触れ、「役立つ」という認識が生まれ始める。
第7回	手法理解が進み、一部で理解と興味が結びつく。
第8回	テーマの具体性・応用性により関心が上昇。
第9回	実習的要素を通じて有用性を実感する学生が増加。
第10回	応用理解が進み、社会的活用への意識が強まる。
第11回	学習内容の整理が進み、理解の定着が見られる。
第12回	授業の意義を実感する学生が増え、全体的に肯定的。
第13回	内容を振り返り、必要性を自覚する内省的な記述が増加。
第14回	学期全体を通じた理解・成長を実感し、肯定的評価が顕著に増加。

今後の活用は「教養として知っておきたい」が圧倒的多数。 到達目標は概ね達成。

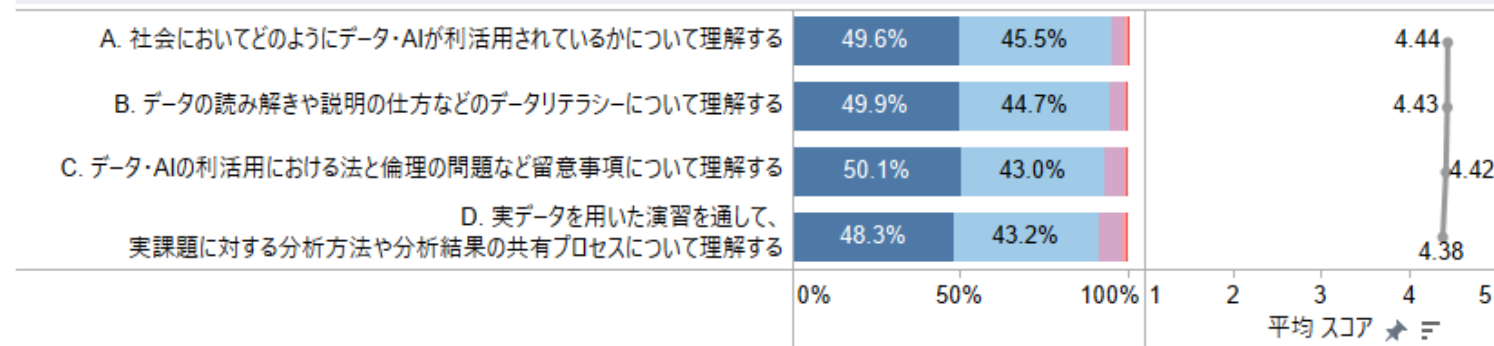
今後の活用



回答

- 1. まったくそう思わない
- 2. そう思わない
- 3. どちらでもない
- 4. そう思う
- 5. とてもそう思う

到達目標の達成度





上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

FOR OTHERS, WITH OTHERS